

スキークラブニュース

2013年4月号 かながわブラインドスキークラブ
発行責任者 会長 岩崎 宗治

今回は総会・懇親会出欠用ハガキを 同封しています。

2013 年度 総会及び懇親会のご案内

日 時： 2013年 5月19日(日) 14:00~17:00

会 場： 神奈川県ライトセンター 2階 第1会議室A B

内 容

<議事>

1. 2012年度 クラブ 事業報告
2. 2012年度 クラブ 決算報告
3. 役員改選
4. 2013年度 クラブ 事業計画案
5. 2013年度 クラブ 予算案

<意見交換>

6. 2013 ツアーについて
7. 30周年事業について
8. その他の行事について
9. その他運営等について

☆ 年一度の大事な総会です。安全で楽しいスキーを続けられるように、みんなで意見を出し合い、みんなで協力し、それぞれが自分のためにそしてクラブのために役割を分担し力を合わせる。

そんなクラブでありたいと思いませんか。お待ちしております。

総会終了後 以下のように懇親会を行いますのでこちらも是非ご参加下さい

【ブラインドスキークラブ懇親会】

日時 平成25年5月19日(日) 17:30~19:30

場所 団欒(炎)二俣川店(045-360-8010) 予定

会費 ￥4,000(飲み放題付)

☆ ブラインドの方は出欠回答ハガキの切れ目の入った角を左下にして右上の対角線上の角が総会と懇親会の両方に参加する方、左上が総会だけに出席する方、右下が懇親会だけに参加する方として、1センチ程度斜めに切り取ってください。

☆ 総会に欠席される方は出欠回答ハガキの文書面に押印又はサインをいただければ議長に対する委任状とさせていただきます。

☆ 毎年委任状が少なく総会の成立に苦慮しております。

出欠回答ハガキは必ずご返送ください。

尚、同封の出欠回答ハガキは4月30日までに投函ください

【2013 岩原スキーツアー 報告】 飯田 清一

スキー実行委員の飯田です。今年は年 2 回のスキーツアーを行うこととなり、1 月に岩原ツアーを企画し、その実行委員長を勤めさせていただきました。まず、岩原スキーツアーを行うこととなったいきさつについて説明します。そもそも、昨年（2012 年）の岩鞍ツアーのブラインドミーティングのとき、もっとスキーツアーを企画して欲しいという意見も出ていました。

それを受けてかどうかはわかりませんが、昨年夏に臨時のスキー実行委員会の召集があり、そのときに 2 回のツアーを行うことが決まりました。そのときは、3 日間のツアーを 2 回行うのはちょっと難しいのではということから、2 日間の日程で充分スキーを楽しめるようにという条件で場所探しから始まりました。いろいろと場所の候補はあったのですが、交通アクセスの良さ、ゲレンデ、宿などの条件が揃ったところがなかなか見つからなくて困りました。そうしたときに、最初のブラインドスキークラブのツアーは岩原スキー場でやったという話があり、そこならいい宿も知っており、上越新幹線を使えば短時間でいけるということから、岩原でツアーを行うことに決まりました。そのあとは、岩原ツアーと岩鞍ツアーの 2 つのツアーをスキー実行委員で分担したり、協力したりしながら企画を進め、無事 2 つのツアーを行うことができました。

では、実際の岩原ツアーはどうだったかについて報告します。

今回は、久しぶりの 2 回ツアーということもあり、岩原ツアーは 20 名程度のこじんまりとしたツアーということで募集し、視覚障害者 6 名、晴眼者 13 名の 19 名でのツアーとなりました。出発は 1 月 25 日（金）の夜、会社を早めに切り上げて東京駅中央改札に集合。夜 8 時過ぎの上越新幹線に乗車し、10 時には岩原の宿へと到着しました。やっぱり新幹線は早い！！その日は宿でゆっくり休んで、明日のスキーに備えました。1 月 26 日（土）。「今日は一日スキーを楽しむぞ！」と張り切ったものの、あいにく外は大雪。ゲレンデは圧雪が間に合わず、深い雪に足を取られ、顔に当たる雪が痛くて大変な一日となりました。1 月 27 日（日）。昨日の大雪も峠を超え、朝から小雪

舞うなか、2日目のスキーとなりました。ゲレンデは朝早くから出ている圧雪車によって圧雪されていて、朝から快適なスキーを楽しむことができました。お昼には、名物おかみのいるロッジで食事をしたのですが、超大盛りのもつ煮込み丼や特製カレーうどんにみんな苦労していました。

この日は、午後3時まで存分にスキーを楽しみ、帰り支度をしたあと、午後5時頃に帰路につきました。その後、越後湯沢駅でおみやげを買ったりして、午後6時前の新幹線に乗車。午後7時頃には東京駅に到着し、解散となりました。ほんと、新幹線を使うと往復の時間を短くでき、短い日程ながら存分にスキーを楽しむことができ良かったです。ただ、ちょっと交通費が高くなるのが難点ですが……。今回、2回のスキーツアーを実施できたことで、また来年も2回のツアーを企画したいという気運が高まっています。それには、スキー実行委員が集まらなければなりません。スキー実行委員をやってもいいという方、ご協力をよろしくお願いします。

【岩鞍スキーツアー 感想①】古野 友紀

初めてのスキークラブツアー参加の感想は、とにかく「楽しかった」です。

昨年のツアー反省会（4月1日）からの参加で、この1年、本当に楽しみでした。

一方、「パートナーは、声かけで一緒に滑る」という前知識のみで参加したので、どういう研修を経て実践するのか不安でした。初日の研修は、志村さん指導で、至近距離で滑る練習・声かけという基本から、最後は目をつぶってパートナーの声で滑りました。

研修後、実際に高木麻里子さん・高野さんペアについて滑ってみましたが、スピードが早くてついていけませんでした。このクラブのスキー技術が非常に高いことを認識すると同時に、

「早く実際に、やってみたい」と、はやる心で初日終了。

2日目は、川添由紀ちゃん・対馬さんペアについて実践練習。2人とも息ぴったりで、ついていくのがやっとな。

実際にパートナーになると、リフトまでの誘導・乗り方・降り方など、いろんなことで声かけが必要なのを実感しました。滑っているときは、声かけするのが精一杯で、左右を言い間違えたりと申し訳ない気持ちばかりでしたが、由紀ちゃんが「おかしい？」と気がついてくれたり、ターンの間隔についてどうだったか、フォローしてくれて少しずつ緊張が取れました。

リフトに乗っている間に、お互いの事を話したり、直前の滑りについての感触を聞いたりするのが重要だと思いました。3日目は、初瀬川さんのパートナーになりました。自由に滑ってもらいながら、ゲレンデの真ん中を滑ってもらうことを心がけました。

初瀬川さんが、かなりスピードを出して滑り、追いつけなくなり、白崎さんをハラハラさせましたが、「すごく気持ちよく滑れた」という感想を頂き本当に嬉しかったです。

自分の前をのびのび滑る姿は高木麻里子さんの言葉をお借りすると、まさに「背中が笑ってる！」。これからも自身のスキー技術の向上を図るとともに、ツアーに毎年参加して、皆さんと一緒に滑りたいです。実行委員の皆様、おつかれさまでした。今後とも、よろしく申し上げます。

【岩鞍スキーツアー 感想②】赤城 啓太

私は、平成25年3月16～18日にかけて、尾瀬岩倉スキー場で初めてかながわブラインドスキークラブの活動に初参加しました。

もうとにかく驚いたのは、ブラインドの方々のスキーの上手さです！私自身7年ぶりのスキーで、正直ついていくのが精一杯でした……。笑

晴眼者とブラインドの方々が力を合わせて、スキーに対し真剣に取り組む姿勢や、懇親会等でのハジけっぷりは普段とのギャップがすごい！そんな皆様にいろいろな意味でパワーをいただきました。まだ参加したことない方！冬の一大イベントとして、スケジュール帳に予定を毎年書きましょう！私も今後継続して参加していきたいと思います。

それでは皆様、雪山でお会いしましょう！

【岩鞍スキーツアー 感想③】鈴木 恵子

今回、初参加させていただきました。スキーをやるのは10年振りで、しかも、その頃は白杖も使わずに、少しは歩けてたので、前を滑る人を追いかけて滑ることが出来ました。

しかし、今は盲導犬と一緒にないと、歩けない状態です。不安と緊張がありましたが、思い切って犬と参加しました。犬はホテルで待機。おとなしく待っていてくれました。

いざ、私のスキーを滑ることになった時、板をはく時点で、なかなかはず10年前とは、明らかに視力の低下を痛感しました。こんな状態で、滑れるのだろうか、正直怖かったです。

でも、「パートナー」と呼ばれる一緒に滑りながらサポートしてくれる方が、すごく安心感を与えてくれて、怖かった気持ちがだんだん薄らいで、楽しくなってきました、

最終日を終えた頃には、疲れてはいるものの、気分は心地よく、もっと上手くなれたら、もっともっと楽しいだろうなと思いました。同行の方、みなさん明るく楽しい方ばかりで、あっと言う間の3日間でした。また、機会があれば、ぜひ、参加させていただきたいと思います。

お世話になりっぱなしでしたが、ありがとうございました。

【岩鞍スキーツアー 感想④】鈴木 勝

妻の「スキーをまたやってみたい」、娘にスキーを体験させたい、母親（おばあちゃん）の「孫とスキーを滑りたい」、そんな思いの中、僕は付き添い気分、横浜からのバスに乗って日程票をもらうまではそんな感じでした。いただいたチームでは到底無理だと思ったと同時にすぐやさしい方に移れるだろうとも思いました。なにせ自分は10年ぶりのスキー、体力も落ちているだろうしそもそも付き添い気分、かなり不安の出発となりました。さて実際にゲレンデにでてみ

ると、10年前とできることにそれほどのブランクは感じなかったもののとにかく恐いのです。

1本目のリーダー小林さんの「久しぶりなのでゆっくり行きましょう」にほっとしたのも束の間、外山さんからは「もっとスピードを」とのアドバイス。帰るときは自分なりに少しは上達したかなあと思ったものの、このときは正直かなり後ろ向きでした。1日目の午後にゴンドラに乗ってミルキーウェイに上がったときは不安は最高潮でヤバイクラスに入っちゃったなあと思うばかりでした。それでもそこをなんとか滑り降りられると少しだけ安心したのといまさら頑張ってみようかという気持ちになり、スキーをやっているという実感もでてきました。

数年前にスキーはもうやることもないだろうと、ウェアなど全部処分してしまって、それが秋ごろのライトセンター便りからチャンスとご縁をいただき、なにより妻も娘も楽しかったとのこと、おばあちゃんの「次は孫をスキーに連れて行く」との楽しみができたことは収穫でしたし、僕も、もう少しうまくなりたいたいと思ったのとこの方たちと行けたら楽しいだろうなと思いました。

ブラインドミーティングは勉強になりました。とても大事な必要なことだなあと感じました。

そういうことも含めてこのクラブがさらに、すてきな方向に進んでほしいと思いました。

三日間ご一緒いただいたパートナーの方を始めご配慮いただいたスタッフの皆様、参加された皆様本当にお世話になりました。いまはとても満足感で、また家族でお邪魔できたらと思っています。今後ともよろしく願いいたします。

【岩鞍スキーツアー 感想⑤】 杉 夏彦

今回、スキー初体験・スキーツアーに初参戦。事前の研修会にも出席させていただき説明を伺いましたが、当日までは「自分にも本当にスキーできるのか？」との心配を抱きながらの参加でした。実際に参加してみると、リーダー+パートナーに付いていただき、ブラインドならでは、ビギナーならでは、私ならではの段階的なアドバイスを適宜、丁寧にして下さり当初の心配は徐々に晴れ、表情もほぐれていきました。スキー、とりわけ ブラインドスキーは、奥深い印象を受

けました。紛れもなくブラインド自身が滑っているのですが、快適に滑走できるためのパートナーの適格な状況判断や要所を抑えた声掛けに支えられている面も多分にあり、この共同して創り上げていく感覚には新しい面白さを感じました。それから、ツアー運営については実行委員さんを中心に綿密な事前準備にとどまらず、当日の打ち合わせ、細々としたハプニングにも柔軟かつタイムリーに対応されており、個別性にも配慮が及んでおり、感心しきりでした。更にこのツアーに携わったお一人お一人が声を形にすべく今後もこのクラブを恒久的により良いものにしていこうとする向上心にも頭が下がる思いです。私は視覚障害者としてどうにかこうにか世間を渡ろうとしている道半ばですが、平生より"障害があること=できない"という社会の否定的障害観に、自分の不甲斐なさを棚に上げては勝手に沈んでいるさなかでした。"ならぬはならぬ"の保守的&消極的で、他罰傾向の強い障害者にありがちなよくある負のスパイラルのまさに典型例ではないでしょうか？そんな中、ブラインドミーティングにも参加させていただきました。

「ブラインド自身をもっと主体的になろう」、「晴眼に甘えて、できることまでやってもらってはいないか？」などなど、私の日常を省みても身につまされる案件が取り上げられていました。スキーを楽しく続けていきたいとの共通したブラインドの諸先輩方の思いが聞かれ、そのうえで、どうしていくべきか意見がかわされていました。このツアーに参加して、スキーにチャレンジする好機を得られたことと併せて幸運だったことはハートフルでファンキーな人々と出会えたことです。年齢や性別、職業、障害の有無などを超えて(もちろん一定の礼節や敬意は払いながら)、語り合い、歩み寄る皆さんの姿を目の当たりにしてなんだか元気がでました。

日常生活の中でも希望する課題に出会えたとき、「なぜできないか？」以上に「どうしたらできるか？」を先行させて考えるよう暮らしてみたいと思います。

【岩鞍スキーツアー 感想⑥ 鷺谷 広道

- ・「全体の感想はいかがでしたか。」に関して

スキーを愛する人の集まりでもありますので、感想を一言で言うと「楽しかったです。」となります。

・「実行委員」に対しては何か希望がありますか

特に何もしないでスキーを楽しむことが出来たのですから、「準備等大変でしたね。ご苦労様でしたね」と言いたいです。きっと誰もがそう思うのではないのでしょうか。

それでもみんな遠慮していて、希望があっても遠慮しているのではないかと思うかもしれませんが、あまりの高見を求めない方が良いと思います。

・ブラインドの方、パートナーの方がより満足していただけるツアーにするになにか意見がありますか

スキーと言う共通のキーワードは一緒ですが、期待する中身は多種多様であると思います。

例えば、「スキーを上達したいので、もっとしっかりレッスンをしていただきたい」「休憩を入れながら、のんびりしたスキーを楽しみたい」「スピードとスリルを楽しみたい」「懇親会を楽しみたい」「夜は部屋でゆっくりしたい」等々。すべての方により満足のいくツアーの企画を組むのは相当難しいのではないのでしょうか。実行委員の方は「ケガがなく、楽しいスキー」にするために最低限何をしなければいけないかを先ずは目指せば良いのではないかと思います。それ以上は、参加者の多様性にどのように応えるのかを企画して見たらどうでしょうか。

・課題と感じたことがありますか

カルテにも記載しましたし、帰りのバスでも指摘がありましたが、弱視の方の先導には何か検討が必要かもしれません。私のケースですが、サブリーダーが止まった場所で、ストップの声をかけましたが遅れてしまい高野さんがコース外に飛び出てしまいました。後を滑るブラインドの方との距離が離れていて、私が視野から外れていたことと、声かけの遅れにより

起こった訳ですが、後を滑るブラインドの方との距離を一定に保つことは結構難しいです。特に視野が狭い高野さんは大きなターンの後に見失うことが多かった様です。我々晴眼者は何色のウエアを着るべきでしょうか。当日私は白の上着と黒のパンツをはいていました。黒は見やすく、白は見にくいとのことでした。また黄色のゼッケンも見にくいとのことでした。同じような状況が共通に起こるのであれば、この辺の配慮も必要かもしれません。以上です。感想を一言で言うと冒頭で述べたとおりです。

【事務局からの連絡】

ツアー実行委員がクラブ備品を整理した際に、ここ数年使用していなかったトランシーバーをまとめて整理することにしました。用途によってはまだまだ使用できる物ですので、まずはクラブ内でオークションにすることになりました。 物品は下記の通りです。

アルインコ DJ-R20 本体4個(設定で双方向通信可)

ヘッドセット2個

ケンウッド DEMENTOS L5 本体6個

〃 DEMENTOS 20 本体2個

ヘッドセット5個

スピーカーマイク2個

